



校区の元気高齢者

山下 純義さん

(89歳)

坂元町在住の山下純義さんは昭和七年生まれの八十九歳。若いときは祇園の洲にある旧営林署（現在の森林管理署）で国有林の造林、伐採、保護など治山業務に携わってこられ、特に桜島の土石流対策事業では数多くの業績を残されました。

元々生まれ育ちも坂元町で、地域のこととは全て知り尽くしたご長老です。

元気の秘訣を聞くと、きちんととした食生活と、成人してからたしなんできた「だれやめ」、そして何より「奥さんと仲良くすること」と少々おのろけも。

どうぞこれからも元気で坂元台校区の若者を引っ張つていいつてもらいたいと思います。

坂元町担当福祉員

元気の秘訣を聞くと、きちんととした食生活と、成人してからたしなんできた「だれやめ」、そして何より「奥さんと仲良くすること」と少々おのろけも。

どうぞこれからも元気で坂元台校区の若者を引っ張つていいつてもらいたいと思います。

元気の秘訣を聞くと、きちんととした食生活と、成人してからたしなんできた「だれやめ」、そして何より「奥さんと仲良くすること」と少々おのろけも。

どうぞこれからも元気で坂元台校区の若者を引っ張つていいつてもらいたいと思います。



柏の団子

坂元中学校 校長 川口 孝

私の田舎ではお盆になると十三日から十六日まで毎日朝夕、墓参りをするのが習わしです。幼少のころでした。お盆に入り、祖母が柏の葉で包んだ数個の米粉の団子を一〇cmほどの細い笹竹の両端に結びつけ、位牌の数だけ仏壇に備えていました。尋ねると、先祖がお盆が終わるときにこれを肩に担いで、あの世に持つて帰るのだと教えてくれました。しばらくは十六日の夜は先祖がいつ帰るのか怖くて仕方ありませんでした。

そんな祖母も九十四歳で家族全員に見守られながら亡くなりました。初盆に、仏壇に一つ増えた竹棒付きの柏の団子の前で手を合わせ目を閉じたとき、祖母がつっこり笑つて竹を肩にかけ向こうへ去つていく姿が目に浮かびました。刹那、思いもかけず目頭が熱くなりました。仮前に手を合わせる意味が一つ増えました。

令和元年に、都道府県民一人が、一年間にどれだけ切り花を購入しているのか調べた結果によると鹿児島県は五、七

校区の社会福祉協議会長を退いてから、半年になります。この間に八十五歳になり、地域福祉の受け手の感も強くなりました。半年ぐらいで回顧とはおこがましいので、地域福祉活動の楽しい思い出を記したいと思います。

会長として最初に発したのは、「高齢化のなかで一番欲しいのは何ですか」という問い合わせです。介護講習会で講師が強調されたのは次のことです。

1. 介護を受ける人が不安にならないように、正面から向き合うこと。

2. 被介護者の残存機能を最大限に利用する介護であること。

聞いた会員は、それなら私だって胸をなでおろし、「災害時非常炊き出し」の実習に取り組みました。会の始まる前に洗つたお米を特性のビニール袋に入れ三十分炊いた非常食を、みんなで食べるといつそう和やかで楽しい講習会になりました。でも、いつもこうした取り組みでは、人は集まりません。地域福祉はかねて来ない人の参加がなければお上品なお飾り活動に終わるのです。そこで考えたのが、人があれました。

集まつた会合の活用でした。幸いにその後、坂元台小と坂元中がボランティア活動推進校に指定されましたので、両校にお願いしてバザーに参加しました。会場には子どもたちの祖父母のほか、幼な子の親子、親夫婦が集まり、車いす試乗や視覚障害体験のアイマスク、白い杖等の体験を鹿児島国際大学の学生さん三人の指導で行いました。順番待ちが出るほどにぎわつたあと感想文には、「不自由な人の大変さが分かつた。自分も何か人のお役に立ちたい」などと、ふれあいの大切さと充実感がありました。最後は、手作りのせんざいを提供し、売り上げ金は会場校と市社協に差上げました。

二〇二五年という高齢化問題最大の年がそこまで来ています。最近は東第一のSさんやMさんのように子どもに頼らず、ホームやマシンションに入る方があります。高齢者の自立志向でしょうか。コロナでふれあいやおしゃべりの機会がほとんどなくなりましたが、自分がほんとうにありました。前の考えを整理する好いチャンスかもしれません。

社会福祉協議会活動を振り返って

後田 和子(前会長)

いきいき坂元台

坂元台校区
社会福祉協議会
発行責任者 別府俊昭
(電話) 247-1305
印刷: ムラタ印刷
(電話) 247-6498

令和三年八月 地球は病氣?

さっぱりしない夏だった。例年なら孫たちと磯に行き、夜は冷えたビールで乾杯・・・でも磯は閉鎖。孫たちの席は遠くてカチン!とはいかななかった。本州の遠くまで帶状降水帯が伸び、数日間に八月三回分もの豪雨を降らせた。避難指示は自宅待機で済んだが、新型コロナ感染が急増。異常気象も含め地球は重い病氣である。

ここ四日間の市内新感染者は平均〇一〇六人。十代未満九、十代一六、二〇代二十八%と二〇代以下が五割強で、新学期にはこの子たちが強いウィルスを家庭や地域に持ち込まないことを願っている。

病気の正式名は二〇一九年型コロナウイルス病、略称COVİD-19。初代病原のSARS-CoV-2(急性呼吸器症候群・新型(二世)コロナ

病気の正式名は二〇一九年型コロナウイルス病、略称COVİD-19。初代病原のSARS-CoV-2(急性呼吸器症候群・新型(二世)コロナ

病気の正式名は二〇一九年型コロナウイルス病、略称COVİD-19。初代病原のSARS-CoV-2(急性呼吸器症候群・新型(二世)コロナ

世界気象機関は、異常高温の原因が炭酸ガス増加にありと。二〇一五年より十八%も増加。発電や精鍊、セメント、動力等が炭酸ガスを増やしているが、これら大切な産業と地球環境との調和、コウモリ等の自然環境保護には、人類全体の学習を政治の力で推進するしかあるまい。重症の地球の治療と介護は全生

物の長子、人間の責任であろう。

後田 逸馬

坂元台小学校 校長 山田 哲夫
令和三年度の人事異動により、南九州市教育委員会から赴任してまいりました。一言ご挨拶を申し上げます。まず、校区の皆様におかれましては、かねてから本校の教育活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

四月は、新一年生五十七人の子供たちを迎え、十六学級の四〇三人、教職員三十四人でスタートしたところです。コロナ禍で心配されました。一年生は「四十五分の授業を受ける」と、六年生は最高学年としての責任感に戸惑いながらも、大過なく過ごしています。さて、今年の一学校一改革は「先手

あいさつ(語先後礼)」、一事徹底は「行く言葉を美しく」です。一学期において、地域の皆様には朝の挨拶運動等にご協力いただきました。この機会でもあると思いまます。このよう青少年を取り巻く環境を大人が意識して整え、このような輪が広がっていくことで「みんなが主役笑顔あふれる坂元台」のまちづくりへとつながっていくのではないかでしょう。

坂元台小学校区が、令和に込められた思いのようになります。校区の墓地をお盆過ぎに通りかかりましたが、たくさんの花で祭られていました。鹿児島県民の先祖を敬う習慣は、是非とも後世に引き継がれてほしいものです。

本校でも子供たちが、先祖を敬い、家族を想い、自他を大切にできるよう心豊かな人間に育つよう取り組んでいます。現在は新型コロナウイルス感染症にかかる感染リスクが予断を許さない状況ですが、今後とも地域の皆様には、様々な機会をとおして、子供たちが校区の良さや伝統を受け継いでいくよう、御理解と御協力の程よろしくお願いいたします。

ウイルス)は今世紀初め、中国・武漢でコウモリを食べた人に感染しました。総感染数八、〇九六、死者七七四。治療法はなく隔離と検疫で八か月後に収まりました。新型にも治療法はないがワクチンがある。今もその接種と隔離・検疫の徹底が唯一の頼り。でも隔離・検疫は毎回小出しだ。この経験を活かす対策は全くなかつた。

コロナ禍に七夕の光明

西坂元町 久本 勝紘



「まちかどフラワー・コンテスト」で、我が玉寿会の花壇が努力賞を受賞しました。玉寿会では、昭和五十一年に市営バス「坂元台小前」バス停隣接農地の「老人レジヤー農園」を借りて花壇を開始しました。平成十一年にレジヤー農園が廃止された時に伴い、台小正門横のフェンスと市道の間の隙間を借りて花壇を作り、現在に至っています。

コンテストでは広い面積で盛りだくさんの花壇に目が行きがちですが、狭い敷地にみんなで工夫していい点も評価されたようで、これからの励みになりました。

（玉寿会広報部 片野田 勝海）



東第一町内会 玉寿会
「まちかどフラワー・コンテスト」で、我が玉寿会の花壇が努力賞を受賞しました。玉寿会では、昭和五十一年に市営バス「坂元台小前」バス停隣接農地の「老人レジヤー農園」を借りて花壇を開始しました。平成十一年にレジヤー農園が廃止された時に伴い、台小正門横のフェンスと市道の間の隙間を借りて花壇を作り、現在に至っています。

コンテストでは広い面積で盛りだくさんの花壇に目が行きがちですが、狭い敷地にみんなで工夫していい点も評価されたようで、これからの励みになりました。

（玉寿会広報部 片野田 勝海）

日頃の「コツコツ・工夫」が努力賞



祭り前日には、手指を入念に消毒しマスクを着けた人々が西坂元町公民館に集まり、高さ五メートルほど竹竿に作品を飾り付けています。短冊には「百点がいっぱい」とれます。宿題を済ませよう」「楽しい夏休み、早くからありますように」「樂しい夏休み、早くからありますように」という高齢者の祈りが込められていました。

西坂元町久本勝紘 七箇所に色とりどり十本の七夕飾りがひるがえりました。新型コロナウイルス蔓延のあおりで、夏祭りや餅つき大会などあらゆる恒例行事が中止に追い込まれて、細工ものの約三千点が寄せられました。

（西坂元町久本勝紘）

つわぶき会は辻ヶ丘の高台で桜島や錦江湾が一望できる環境に恵まれた美しい地域にあります。会員は三十名弱で毎月例会を行い、講師を招いて話を聞き知識を高め、また、火曜日には“よかよか体操”を行い体力増強に努めています。

五月十七日には鹿児島市の二台のバスに便乗して指宿のフラワーパークへ旅行に行きました。山川港にある活お街道（いおかいでう）”で昼食を済ませた後、広大な公園に入りました。何百種類もの草花を見て手入れをしている作業員の方にみんなの顔が笑顔に変わりました。

（西坂元町久本勝紘）

つわぶき会は辻ヶ丘の高台で桜島や錦江湾が一望できる環境に恵まれた美しい地域にあります。会員は三十名弱で毎月例会を行

い、講師を招いて話を聞き知識を高め、また、火曜日には“よかよか体操”を行い体力増強に努めています。

（西坂元町久本勝紘）